

日本社会における中国人交換留学生の 異文化理解に関する一考察

松田 勇一*・安 龍洙**

Cross-Cultural Understanding of Chinese Students in Japan

Yuichi MATSUDA* and Yong Su AN **

要旨

本稿では中国人交換留学生に対して PAC 分析法を用いて調査を行い、留学生が日本において異文化をどのように理解しているのかについて三つの観点から考察を試みた。その結果、以下の点が明らかになった。①「私が生活する日本の社会」という観点では、日本での経験からイメージを得ているが、日本留学前にはステレオタイプの日本像を持っていた者もいる。観点②「私と日本人がつきあうこと」と観点③「日本人が外国人と分かり合うこと」では、「日本人を理解する」という部分で重複する部分が多く、また理解度によっていくつかの段階があることが示唆された。

【キーワード】 中国人留学生、異文化理解、対日観、PAC 分析法

1. はじめに

本研究は、外国人が日本社会や日本人をどのように理解しているのかについて、個人別態度構造分析法 (Analysis of Personal Attitude Construct : PAC 分析法) を用いて、認知的・情意的観点からその変化を探る一連の研究の一部である。外国人の対日観に関する研究は、安 (2008a, 2008b, 2009, 2010a, 2010b, 2011, 2012, 2013, 2016)、安・宋 (2013)、松田 (2013, 2014, 2017) 等がある。その中で、中国人を対象としたものは、安 (2010b, 2012, 2013) である。安 (2010b) は、中国人非正規留学生 4 名を対象に PAC 分析法を用いて考察を行い、「決められた規則を実直に守る日本人」、「礼儀正しくて親切な日本人」、「経済、技術が発達した先進国で生活水準が高い日本社会」、「外国人に差別があり、男女が平等でない日本人・日本社会」等の対日観を挙げた。安 (2012) は、

*宇都宮共和大学シティライフ学部 (〒 320-0811 宇都宮市大通り 1-3-18; Faculty of City-life Science, Utsunomiya-kyowa University, 1-3-18 Ohdori, Utsunomiya-shi 320-0811 Japan)

**茨城大学全学教育機構 (〒 310-8512 水戸市文京 2-1-1; Institute for Liberal Arts Education, Ibaraki University, 2-1-1 Bunkyo, Mito-shi 310-8512 Japan)

中国の少数民族出身者4名を対象にPAC分析法を用いて考察を行い、「日本は先進国で高い技術を持っている」、「日本人は優しく親切である」、「日本人は真面目で時間やルールを守るが、融通が利かない」、「日本人は自分の気持ちをはっきり言わない」、「日本はお年寄りが働かなければならない社会」等の対日観を挙げた。安(2013)は、中国人留学生4名を対象にPAC分析法を用いて考察を行い、「礼儀正しい日本人」、「決まりを忠実に守る日本人」、「親切で優しい日本人」、「自己主張をせず曖昧な行動をとる日本人」等の対日観を挙げた。

以上の先行研究では、被調査者に対して刺激語を与え、対日観について調査している。その際の刺激語は「日本、日本人、日本社会についてどんなイメージを持っているか」というものであり、全体的な対日観を尋ねるものであった。本研究では、中国人留学生の持つ対日観についてより詳細に調査するために刺激語を改めた。具体的には、「私が生活する日本の社会」、「私と日本人がつきあうこと」、「私の国の人と日本の人が分かり合うこと」という刺激語であり、留学生本人が日本という異文化をどのような理解しているのかに焦点を当てた。本稿では、この3つの観点から考察を行い、先行研究では指摘できなかった留学生の異文化理解に関して明らかにしたい。

2. 調査方法

被調査者は、中国からの交換留学生4名であり、約半年間の日本における留学を終え、帰国する直前に調査を行った。調査は第1部と第2部に分けられるが、第1部は被調査者本人の同意を得てフェイスシートに被調査者の属性を記入させてから、質問紙を用いて以下のように調査を実施した。

まず、被調査者に以下の刺激語を与え、「①私が生活する日本の社会、②私と日本人がつきあうこと、③私の国の人と日本の人が分かり合うこと」を含めてイメージ項目が10個以上になるように記入させた。

【刺激文】「あなたは『①私が生活する日本の社会、②私と日本人がつきあうこと、③私の国の人と日本の人が分かり合うこと』についてどのようなイメージを持っていますか。思い浮かんだ言葉やイメージを、思い浮かんだ順に番号をつけて記入してください。言葉でも短い文でも構いません。」

その後、その連想イメージを重要と思われる順序に並べさせた。更にそれぞれのイメージ項目の組み合わせが、直感的イメージでその意味内容においてどの程度近いのかを7段階尺度で評定させた。この尺度での回答をもとに、ワード法でクラスター分析し、その結果に対する対象者自身の解釈を求めた。最後に連想項目のイメージについて、プラスイメージの場合は(+)、マイナスイメージの場合は(-)、どちらともいえない場合は(0)の記号を記入させた。

第2部は口頭により、1)各クラスター及びクラスター全体の解釈、2)上記1)の解釈についての来日前後の変化、3)各イメージ項目に対してそのイメージを抱くようになったきっかけや媒体、を尋ねた。

調査は2017年8月に第2著者が実施したが、被調査者の誤用については正しい日本語に直し分析を行った。また、本稿では被調査者が特定されないように地名、大学名、施設名などはすべてA、B、Cのように匿名にした。

3. 結果と考察

ここでは、まずクラスター分析の結果を示し、その結果に対する被験者自身の解釈を述べてから、総合的な考察を行う。

3.1. 中国人 A（女性）の場合

図 1 は被験者 A のデンドログラムである。

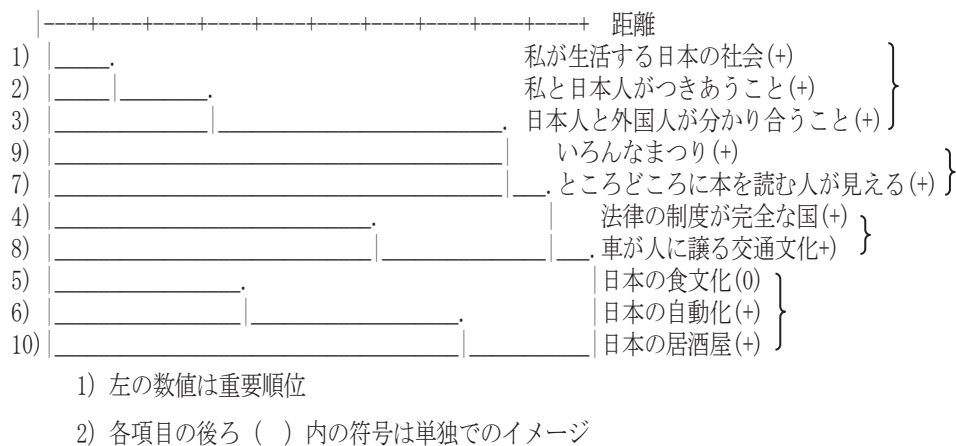


図 1 被験者 A のデンドログラム

クラスター 1 は『1. 私が生活する日本の社会 (+)』『2. 私と日本人がつきあうこと (+)』『3. 日本人と外国人が分かり合うこと (+)』の 3 項目でクラスター名は「異文化としての日本」とした。クラスター 1 は「外国人と日本の関係について。イメージは、1 番目、私が生活する日本の社会は、とても便利だ。(とても便利?) はい。社会は、礼儀正しい。(日本人が礼儀正しいということ?) はい。私と日本人が付き合うことは、日本人は親しくしてくれる時もあるが、冷たい時もある。日本人は、外国人のことをよく知っていると思う。私は外国人として、彼らよりそんなに日本のことを知らなかった。(よく知っているってどういうこと?) 私はコンビニでバイトをして、知らない人、お客さんに『出身はどこですか』って聞かれて、『中国』と答えた。すると、『中国のどこですか』って聞かれたので『内モンゴル』と答えた。日本人には、内モンゴルを知っている人がたくさんいる。(イメージの変化については?) 日本人は、外国のことよく知っていると思う。(来る前にも、このようなイメージ持っていた?) あまり。また、外国人は日本語をそんなに話さなくても生活できるから便利だ。また、自動販売機とかあるから。(2 番の「優しいけど冷たい」は?) 中国で日本人と付き合ったことがあるから、このイメージは日本に来てからも同じだ。」と解釈した。

クラスター 2 は『9. いろんなまつり (+)』『7. ところどころに本を読む人に見える (+)』の 2 項目でクラスター名は「日本人の特徴」とした。クラスター 2 は「日本の社会。日本だけにあることだ。(他の国にあまりないような?) はい、中国にはあまりいない、本を読む人。祭りは、全員参加している祭りだ。(本を読む人って?) 日本人は本を読むのが習慣で、日常生活でよく見る。バスを待っている時、バスに乗っている時、ご飯を注文して待っている時、並んで待っている時。(本を読む人がいる) はい。もし、中国でバスを待っている時、本を読んでいたらおかしいと思われ

る。(イメージの変化については?) 中国にいた時と今とはちょっと変わった、見方が。中国にいた時、このようなイメージは持っていなかった。(日本に来てから分かったこと?) はい。祭りは中国にいた時から知っていたが、そんなに詳しくは知らなかった。(日本に祭りがあるということは知っていた?) はい。日本人がよく本を読むことも知っていた。」と解釈した。

クラスター3は『4. 法律の制度が完全な国 (+)』『8. 車が人に譲る交通文化 +』の2項目でクラスター名は「日本人の規範意識」とした。クラスター3は「日本社会全体的なイメージです。日本として特別なこと。法律制度は、20歳。(中国にもあるでは?) そんなに厳しくない。アルバイト先の居酒屋で知ったが、周りの人も20歳以上にならないと一緒にお酒飲めないって。(そういうこと言っていた?) はい。自分の子どもではないが、それも重視する。(中国はしない?) はい、そんなに厳しくない、みんなあまり気にしない。(交通文化は?) 日本に来てから、必ず車が止まって人を待ってくれるのを見た。中国では超危ない。中国では、歩いている人が待つ。(イメージの変化は?) このイメージは中国にいる時は持っていなかった。」と解釈した。

クラスター4は『5. 日本の食文化 (0)』『6. 日本の自動化 (+)』『10. 日本の居酒屋 (+)』の3項目でクラスター名は「日本での生活」とした。クラスター4は「日本人の日常生活だ。日本の特徴。これは、必ず日本。(ちなみに食文化にはどんなイメージを持っている?) 味が薄いものが好きだけど、揚げ物も好きだ。(味が薄い?) はい、味が薄いけど揚げ物も好きだ。野菜は生でそのまま食べる。野菜はあまり炒めない。日本は何でも自動的だ。(例えば?) レジは、お金を入れると自動的にお釣りが出る。洗濯する時も、自動的にやってくれて超便利だ。(居酒屋は?) 居酒屋は日本だけの文化かなと思う。(他の国ではあまりない?) 中国では、みんなキッチンの周りに座って、料理人を見ながらご飯食べる。(イメージの変化は?) 料理を作る人が作り終わったら持ってきてくれることだ。(中国にいた時はそのイメージを持っていた?) 全然持っていなかった。」と解釈した。

各クラスター間の比較においては、クラスター1と3について「クラスター3があるとクラスター1を感じる。こういう制度、文化があるところに日本人が住んでいる。」と解釈した。また、クラスター3とクラスター4について「法律が完全だから、日本の自動化が進んでいる。自動販売機を見て分かる。きちんとルールを守るから、自動販売機で販売ができる。」と解釈した。

全体のイメージのイメージに関しては、「さすが日本というイメージだ。(具体的に?) 超真面目。日本人はどんな小さいことでも全力を尽くしてやる。(他には?) 思いやり。日本人は他人に

表1 被調査者Aの対日イメージとそのきっかけ

	イメージ項目	イメージ形成のきっかけ・媒体など
1	1. 私が生活する日本の社会 (+)	留学生活を通して
	2. 私と日本人がつきあうこと (+)	①日本人学生と受けた授業で②知らない日本人を見て
	3. 日本人と外国人が分かり合うこと (+)	アルバイト
2	9. いろんなまつり (+)	チューターと話して
	7. ところどころに本を読む人が見える (+)	バスで見たから
3	4. 法律の制度が完全な国 (+)	アルバイトをしてみても
	8. 車が人に譲る交通文化 +)	無回答
4	5. 日本の食文化 (0)	ホームステイしてみても
	6. 日本の自動化 (+)	スーパーを見て
	10. 日本の居酒屋 (+)	パーティーを居酒屋でするのを見て

迷惑掛けるのが大嫌いだ。日本人は全体的に、みんな同じ民族だ。集団意識がとても強い。人々に違いがあまり見当たらない。(イメージの変化は?)中国にいた時はイメージがそんなに強くなかった。日本に来てから強くなった。そこまで真面目だとは思わなかった。」と解釈した。

被験者 A の対日イメージとそのきっかけは、表 1 の通りである。ほとんどの対日イメージは、日本での留学生活の中で形成されており、アルバイトやホームステイ等、直接本人が経験していることがきっかけとなっている。プラスイメージとマイナスイメージの項目数の比較では、10 項目のうちプラスが 9 項目、マイナスが 0、どちらでもないが 1 項目であった。

3.2. 中国人 B (女性) の場合

図 2 は被験者 B のデンドログラムである。

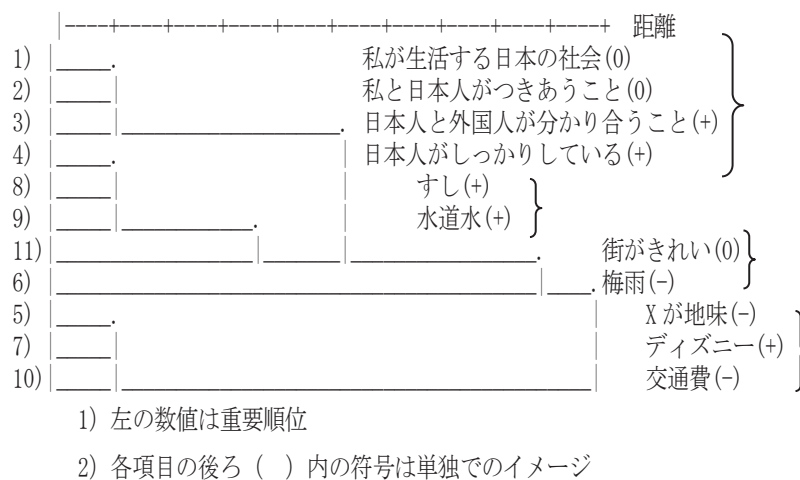


図 2 被験者 B のデンドログラム

クラスター 1 は『1. 私が生活する日本の社会 (0)』『2. 私と日本人がつきあうこと (0)』『3. 日本人と外国人が分かり合うこと (+)』『4. 日本人がしっかりしている (+)』の 4 項目でクラスター名は「日本の社会」とした。クラスター 1 は「私が生活する日本の社会は、自分の国より手続きなどが多い。面倒くさいと思ったことがあった。(例えば?) 銀行や電話番号の契約、Wi-Fi など、いろいろ。メールで、電話で、面接で話さなければならないし。その日が終わっても、2 週間ぐらいかかるという感じだ。4 番の日本人がしっかりしているというイメージと同じだと思う。(例えば?) 最初来たとき、会館に着いたら、みんな外に出て私が乗っているタクシーから荷物を全部持ってくれたりした。朝早く起きて、留学生を連れて市役所行ったり。そのときは、日本人は大学生もそんなに仕事できるかなと思った。(それがしっかりしている?) はい。バイト先でも、日本人のバイト生の方が挨拶するし、返事をしっかりしているし、真面目だと思う。(日本人と外国人が分かり合うことについては?) いろいろ話や文化など通じないことがあるが、ほとんどの気持ちとかは分かり合えると思う。(例えば?) 手で、これは女の子って意味とか、これは怒ったとかいうことが。(しぐさとかが中国と違う) はい。そして、子どもの時から今まで見てきた番組や、小説は、通じないから。そこの話はあまり話せない。(そういう部分は違うけど、話せば理解し合える) はい。(日本の社会は?) 安全だと思う。夜どこに行っても警察の車が通ったり、公園に運動しに行っても警察が回ったりするので、安心だと思う。(他には?) 外国人より日本人のほうが、

本音は言わない。外国人は、怒ったら怒ったって言ったりしてすぐ分かる。しかし、日本人は、自分のことをどう思っているのかがよく分からないところもある。(日本は?) 好きだ。(住みやすい?) それは人によると思う。白人には多分みんなが英語で話しかけたり優しくしてあげるのだが、アジア系やタイやベトナムなどは違う。タイ人の友達がコンビニでバイトしたら、「みんなが留学生だと思わないし、普通に日本で働きたい人だと思って、そんなに優しくしてくれない」と言っていた。(タイの友達が言っていた?) はい。(自身はどう感じている?) 私は大丈夫です。(イメージの変化は?) 日本に来る前は、ドラマなどで見ると、みんなかわいくて。アニメのポスターとかいろいろあって、人形とかいろいろあって、明るい国だなと思っていたが、社会が明るいと思っていたけど、ここに来たら日本人は結構真面目で、そんなに明るい感じはしなかった。日本人はどこへ行っても礼儀正しいと思ったのだが、大阪とか旅行に行ったとき、中国と同じだなと思った。」と解釈した。

クラスター2は『8. すし (+)』『9. 水道水 (+)』『11. 街がきれい (0)』の3項目でクラスター名は「日本の日常生活」とした。クラスター2は「すし、日本人も外国人もよく行く。水道水は、飲めることがいいと思う。(中国では飲めない?) 飲めない。日本の街がきれいだといつも思う。でも、ごみ回収日は臭いと思う。外に置きっぱなしで。これは日常生活のクラスターだと思う。食べ物と水と生活している街。(イメージの変化は?) 中国にも日本料理があるが、すごく高い。でも、ここに来たら回転すしみたいに安いものもあると思った。回転すし以外はやっぱり高い、ラーメンとかはすごく高い。やはり、生活費は高い。例えば、私の実家では、父と母と私、3人の1カ月の水道、電気、ガスを加えても、3000円しかしない。(ここへ来たら1人で4000円から6000円ぐらいするのが、確かに高いと思った。でも給料も高いので、まだ大丈夫だ。」と解釈した。

クラスター3は『6. 梅雨 (-)』の1項目でクラスター名は「日本の梅雨」とした。クラスター3は「今一番最近悩んでいることだ。洗濯ができなくて。(乾かないから?) はい。いつ雨降るか分からないし。(その時はどうする?) 毎日、天気予報見て、いつか洗濯できるかなって。天気予報見ているけど、最近合っていない、天気予報は。昨日も今日も降るって言っていたのに、全然降らない。(午後から降るって) どうしよう。今も洗濯したいです。(イメージの変化は?) 日本の梅雨はちょっと知っていたが、ほとんど知らなかった。こんなに長いのも知らなかった。」と解釈した。

クラスター4は『5. Xが地味 (-)』『7. ディズニー (+)』『10. 交通費 (-)』の3項目でクラスター名は「地域による違い」とした。クラスター4は「旅行したりして、自分が生活しているX市を他の都市と比べてみたら、クラスター4のイメージができた。(もうちょっと具体的に) 日本に来る前、日本人はどんな服装でも平気で、街を歩いても誰も見ないっていう印象がドラマとかで出たけど。でもXでは、ちょっと変な服装たらみんな見る。ディズニーは調査の前の日に行った。最近、ディズニーで働いている人たちが、「笑わない」ってみんな言った。(笑わない?) 昔は、観光客に笑顔だったけど、今は笑う人は半分ぐらいだ。(それはどうして?) 多分、外国人もいっぱい来て。(笑うと変に思われるから?) そうかもしれない。(イメージの変化は?) 交通費はどこ行っても同じだと思ったが、やはり都市と都市は違う。みんながX市のほうが高いって言う。Yに住んでいる友達が、「そんなに高くない」と言った。(他には?) ディズニーは大体、良かった。確かに、乗り物とか素晴らしいなと思った。そして、いつも見ている映画が有名で、乗り物はすごく本物みたいだった。そして、映画の主人公も、『わざわざ東京に来てディズニーに行ったことがある』って言った。」と解釈した。

各クラスター間の比較においては、クラスター1と2について「すしは生でも食べられること

と、水は水道のままで飲めることと、街がきれいなことは、みんな日本の社会が。日本は食べ物の安全。そして、日本人がしっかりしていることだと思う。」と解釈した。クラスター1と3について「私が生活する日本の社会は、日本全体的の社会のイメージもあるが、やはり自分が住んでいるX市のイメージが強いと思う。」と解釈した。クラスター2と3について「生活に関連することだ。」と解釈した。全体のイメージに関しては、「日本に来る前は、いいことしか知らなかった。日本に来たら、ちょっと昔知らないことも分かってきた。(例えば?) 例えば、さっき言ったとおり、日本人は怒らないと思っていた。いつも礼儀正しくて、怒らないと思った。でも、ここに住んで付き合ったら、怒るって分かった。日本人は怒るが何も言わないから、みんなが怒らないって思う。外国人は、日本人は怒らないと思うが実は怒る。食べ物がおいしい。確かにおいしいけど、そんなに種類が多くないから今ちょっと飽きてきた。天ぷら、すし、焼き鳥、焼き肉、ラーメンと、ハンバーガー。普通に生活する時、何食べようかな、これしか考えられないです。(イメージの変化は?) 夜、店の終わる時間が早いと思う。(早く終わる?) はい。9時ぐらいになったら、街に行くと結構、暗くて不便だ。そして、例えばちょっと早い飛行機に乗りたくてちょっと早い電車に乗りたかったが、今住んでいる所からX駅までどうやって行ったらいいか分からないからつらい。朝早い時間に走るバスがないから。」と解釈した。

被験者Bの対日イメージとそのきっかけは、表2の通りである。ほとんどの対日イメージは、日本での留学生活の中で形成されており、回転ずし、水道水、ゴミ回収日等、日常生活に関するものが多い。プラスイメージとマイナスイメージの項目数の比較では、10項目のうちプラスが5項目、マイナスが2項目、どちらでもないが3項目であった。

表2 被調査者Bの異文化観イメージとそのきっかけ

	イメージ項目	イメージ形成のきっかけ・媒体など
1	1. 私が生活する日本の社会 (0)	無回答
	2. 私と日本人がつきあうこと (0)	無回答
	3. 日本人と外国人が分かり合うこと (+)	無回答
	4. 日本人がしっかりしている (+)	チューターに手伝ってもらったから
2	8. すし (+)	回転ずしを見て
	9. 水道水 (+)	飲めることを知って
	11. 街がきれい (0)	綺麗だがゴミ回収日は臭い
3	6. 梅雨 (-)	今年の6月から経験して
4	5. Xが地味 (-)	生活してみても
	7. ディズニー (+)	行ってみても
	10. 交通費 (-)	他の都市と比べてみて

3.3. 中国人C (女性) の場合

図3は被験者Cのデンドログラムである。

クラスター1は『1. 私が生活する日本の社会 (+)』『5. 秩序がある (+)』『4. 細かいところを重視する (+)』『8. 便利 (+)』『14. 物価が高い (-)』の5項目でクラスター名は「日本の社会」とした。クラスター1は「日本に来て分かったイメージだ。(具体的に?) バスやJRに乗った時、みんな一人一人乗車するという実情があると思う。中国では多分、車が。(4番と8番のイメージは?) 細かいところだ。例えば、学校の図書館は話せる所もあるし、食べられる所もあるし、静かに勉強

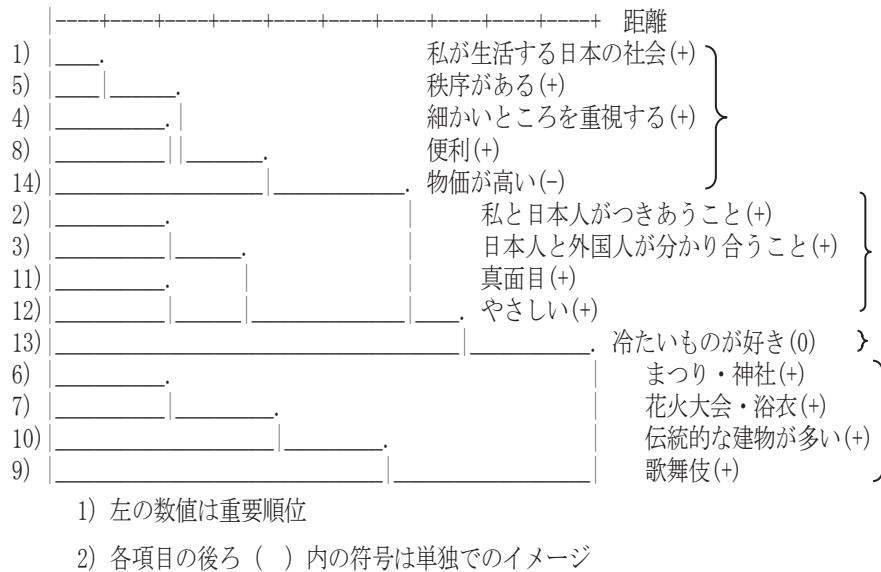


図3 被験者Cのデンドログラム

しかできない所もあるし、それはいいと思い。(他には?)『物価が高い』は、日本に来て、食べ物とかバス代とかすごく高いと思う。バス代、交通費は多分、中国の10倍以上だ。(そんなに高い?)高い。非常に高いと思う。コンビニはどこにでもコンビニがあるから便利だ。(中国にはコンビニがない?)あるが、そんなに多くない。(コンビニだけ?)買いたいものは全て大体…。(品物が揃っている?)揃っている。また、料金も払える。(イメージの変化は?)日本に来る前は、ただ先生から聞いただけだった。このイメージはちょっとあるが、そんなに強くなかった。(日本に来てそのイメージが強くなった?)はい。日本に来る前はそんなに高いとか、そんなに細かいことを重視するとか、そのようなイメージはなかった。」と解釈した。

クラスター2は『2.私と日本人がつきあうこと (+)』『3日本人と外国人が分かり合うこと (+)』『11.真面目 (+)』『12.やさしい (+)』の4項目でクラスター名は「日本人との交流」とした。クラスター2は「日本人に対してのイメージだと思う。(例えば?)例えば7月2日は〇〇大学の2次試験を受ける時、今のチューターに聞いて、ここからどのようにその学校に着くのか聞いた。チューターはそのバスの時間を調べて、JRの時間も調べてくれた。どちらがいいか、いつ出発したほうがいいか、全部具体的に書いてもらった。(そういう日本人を見て真面目だと思った?)はい。会社人は、みんなスーツを着ている。スーツは真面目な印象がある。(他には?)留学生として、日本語がちょっと弱い。よく自分が言いたいことをはっきり言えないが、日本人の友達をよく『ゆっくり言っても大丈夫だよ』って言ってきて、その時も、なんかいい。(中国人も同じでは?)はい。(それ以外は何か感じていることは?)日本事情の授業でも言ったが、例えばちょっとぶつかっても謝らない。私にとっては、何か細かいことをしてもらったら、必ず「ありがとう」と言うが、日本人はあんまり言わない。(ありがとうと言わない日本人がいる?)はい。多分、非常に細かいことだから言わないけど。(普通は、日本人は、「ありがとう」ってよく言うよね?)普通はよく言うけど。(そうじゃない人もいるということ?)はい。ただ細かい。例えば外に出るとき、ドアをちょっと開けてあげても「ありがとう」と言わない日本人もいる。(どこで?)授業が終わった後。(授業だからじゃない?)私の場合は、必ず『ありがとう』と言う。(礼儀正しくない日本人もいるということ?)はい。(他には?)買い物とかした時の店のレジで。レジの人はよく微笑ん

で、お金を。これは日本の礼儀だ。日本人にとっては普通だと思う。(商売だからね) だが、中国はちょっと違う。店の人は、表情がないし、ちょっと冷たい。日本に来たばかりの時、ちょっと感動した。笑顔にちょっと感動した。(イメージの変化は?) クラスタ2の日本人に対してのイメージは中国にいた時は、持っていなかった。ただ社会のイメージは、いろいろな先生から聞いた。」と解釈した。

クラスタ3は『13. 冷たいものが好き (0)』の1項目でクラスタ名は「日本人の飲み物」とした。クラスタ3は「去年初めて日本に来た時、冬12月の寒いときに来た。レストランに入ると、すぐ氷水を出してくれた。ちょっとびっくりした。中国では、必ずお湯とか。(私も冬でも氷入れて水飲む) ちょっとびっくりした。(やっぱり変?) 初めて見た時は、ちょっとびっくりした。アイスクリームとか。(果物とかも日本人は冷蔵庫に入れておく。中国もそうでしょ?) 夏はそう。 (冬は?) あんまりしない。外国人にとっては、ちょっとびっくりする。そして、子どもたちも冬の時も短パンで来ている。中国では、冬ならきっと三つ以上のズボンをはいている。(いっぱい着込む?) はい。びっくりした。中国では逆だ。(イメージの変化は?) 国にいた時は、こういうイメージを持っていなかった。」と解釈した。

クラスタ4は『6. まつり・神社 (+)』『7. 花火大会・浴衣 (+)』『10. 伝統的な建物が多い (+)』『9. 歌舞伎 (+)』の4項目でクラスタ名は「日本の文化と伝統」とした。クラスタ4は「日本の伝統だ。(どんなイメージ?) 日本は、伝統を大切にしている。(例えば?) 例えばホームステイに行った時、ホストファミリーは、和式の部屋に住んでいた。初めて畳の部屋に入ったから、普通感覚と違うと思った。(他には?) 祭りとか神社とか。中国には伝統的な建物とか文化とか、今は少ないと思う。伝統的なものを大切にするという日本社会は中国にいた時も知っていた。(どうやって知った?) 先生から聞いた。また、教科書にも。」と解釈した。

各クラスタ間での比較においては、クラスタ1と2について「クラスタ2で言った日本人はいつも真面目だから、よく秩序を守る。ちょっと頭がパニックになる。また、細かいところを重視するの、真面目に人にずっと感じて、それを細かく。」と解釈した。クラスタ1と4について「日本にいる時の社会のイメージだ。日本と言うと必ず神社などを思い出す。(日本を代表するようなイメージ?) はい。クラスタ1も4も日本を代表するイメージだ。(外国人が日本というところというイメージを抱く?) はい。」と解釈した。

全体のイメージのイメージについては、「日本に来ていろいろな細かいことに感動したこともある。(例えば?) 例えば東京で地下鉄に乗った時、障害者が乗車する時、駅員が車いすの人も乗れるように案内をする。地下鉄も。(車いすの人が通れるような道が整備されている?) はい。それは中国では見たことがないから感動した。その後も駅に着いたらその障害者に到着する時間を知らせ、乗り降りができるように駅員が手伝う。(それが細かい? 感動した?) はい。(他には?) 便利。全部便利です。バスが時間どおりに走る。(一番便利だと感じているのは?) コンビニとか。バスのチケットも、もらえる。コンビニのような店は、中国ではチケットが買えない。(日本人に関して?) 日本人と付き合うのは、ちょっとストレスがあると思う。(ストレス?) はい。いつも優しく接してくれるが本当の気持ちがちょっと分からないからストレスを感じる。うれしいのか怒っているのか、分かりにくい。(顔を見ても分からない?) 分からない。気持ちを言葉で言わないからどうしたらいいか分からない。何も言わないからどうしたらいいかちょっと分からない。(距離を感じる?) はい。中国は友達と付き合うのは楽。何を思っているか分かるから。」と解釈した。

被験者Cの対日イメージとそのきっかけは、表3の通りである。ほとんどの対日イメージは、

表3 被調査者Cの異文化観イメージとそのきっかけ

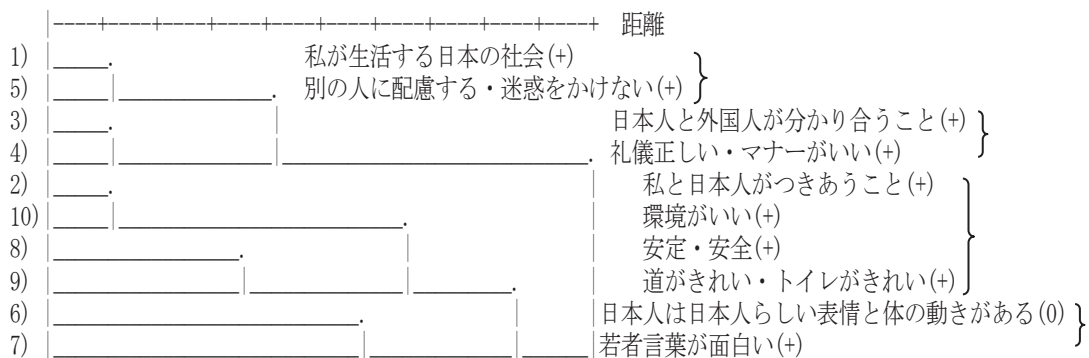
	イメージ項目	イメージ形成のきっかけ・媒体など
1	1. 私が生活する日本の社会 (+)	無回答
	5. 秩序がある (+)	バス、JR
	4. 細かいところを重視する (+)	図書館
	8. 便利 (+)	コンビニ
	14. 物価が高い (-)	交通費
2	2. 私と日本人がつきあうこと (+)	無回答
	3. 日本人と外国人が分かり合うこと (+)	無回答
	11. 真面目 (+)	チューター
	12. やさしい (+)	日本人の友達
3	13. 冷たいものが好き (0)	氷水を飲む日本人を見て
4	6. まつり・神社 (+)	桜まつり、神社、本
	7. 花火大会・浴衣 (+)	七夕祭りを見て
	10. 伝統的な建物が多 (+)	ホームステイ、昼
	9. 歌舞伎 (+)	本、テレビ

日本での留学生活の中で形成されているが、まつり、神社、歌舞伎等の伝統文化については本を読んで形成されたイメージもあった。回転ずし、水道水、ゴミ回収日等、日常生活に関するものが多い。プラスイメージとマイナスイメージの項目数の比較では、14項目のうちプラスが12項目、マイナスが1項目、どちらでもないが1項目であった。

3.4. 中国人D (男性) の場合

図4は被験者Dのデンドログラムである。

クラスター1は『1. 私が生活する日本の社会 (+)』『5. 別の人に配慮する・迷惑をかけない (+)』の2項目でクラスター名は「日本人の規範意識」とした。クラスター1は「日本人の、生活の上の基準だと思う。(基準?)はい。規則。(例えば?)まず別の人に配慮するというのは、例えば日本で道を歩いている時には、車と面する時は、大体、運転手さんが歩行者を先に行かせる。それは自分の国であまり見られない。迷惑を掛けないというのは、例えば電車の中で皆さん声が小さい。



1) 左の数値は重要順位

2) 各項目の後ろ () 内の符号は単独でのイメージ

図4 被験者Dのデンドログラム

(電車の中で話す声が小さい?) はい。(他には?) 小さなことで日本人がずっと謝ることもある。(相手に謝る?) はい。(他に?) 例えば空港で、日本に来たばかりの時、バスに乗る時は、運転手さんが荷物を運んでくれた。荷物をバスの下の箱に。それは日本人の配慮だと思う。他には、今覚えていない。(私が生活する日本の社会の特徴的な点ということ?) はい。(イメージの変化は?) 日本に来る前にもう持っていたからイメージは変わっていない。」と解釈した。

クラスター2は『3.日本人と外国人が分かり合うこと (+)』『4.礼儀正しい・マナーがいい (+)』の2項目でクラスター名は「日本人の礼儀作法」とした。クラスター2は「これは日本人と外国人の区別かなと思う。(区別? 違いということ?) はい。違い。(もう少し詳しく)日本人のほとんどは、礼儀正しい、マナーがいいと思う。外国人は、特に中国人、韓国人はマナーが悪い印象がある。(例えば?) 列に並ぶ時や何かを買う時は、日本人は順番に前に進むが、外国人は真ん中に…。(割り込んでくる?) 割り込んでくる時もある。そして、礼儀正しいというのは言葉遣いだ。日本人の言葉遣いは、あまり悪い言葉はないと思う。中国語で悪い言葉はいっぱいある。悪口だ。(人を罵ったりする言葉がたくさんある?) たくさんある。(他には?) 例えばサービス業が特に。店とか市役所とかそういう所に行った時は、すごく親切で、丁寧に助けてくれた。(イメージの変化は?) 2のイメージも来日前にも持っていた。授業等で習った。」と解釈した。

クラスター3は『2.私と日本人がつきあうこと (+)』『10.環境がいい (+)』『8.安定・安全 (+)』『9.道がきれい・トイレがきれい (+)』の4項目でクラスター名は「日本の環境」とした。クラスター3は「これはちょっとテーマにふさわしくないと思うが、これは大体、日本の環境だ。(どんな印象?) きれいだ。どこもきれいだ。空気もきれいだし、道もきれいだ。(安定、安全に関しては?) 安定は、日本で生活していることは、安定だと思う。そして安全も。日本の犯罪率は低いかから、安定して、安全な生活が送れる。(イメージの変化は?) 来る前にも同じようなイメージを持っていた。(来てみてどう?) イメージがより強くなった。(特にきれいだと感じているところは?) 特にトイレだ。特に駅のトイレまで、こんなにきれいだとは全然思わなかった。」と解釈した。

クラスター4は『6.日本人は日本人らしい表情と体の動きがある (0)』『7.若者言葉が面白い (+)』の2項目でクラスター名は「日本人の特徴」とした。クラスター4は「これは日本人の特徴だ。(もう少し具体的に?) 日本人らしい表情と体の動きというのは、日本人の表情は、時々大げさだと思う。(表現?) はい。例えば日本人と話している時、何かを話したら、日本人は「ああ、そうなんだ」と、目を大きくして、こんな表情はすごく印象的だ。体の動きというのは、日本人は例えば、さよならする時、ずっと頭を下げて、ずっとこうやって。それは特徴だと思う。(頭をよく下げるとい印象?) はい。よく駅で見ました。(中国人と違う?) 違う。(中国人はあまり頭下げない?) はい。(若者言葉が面白いというのは?) これは日本人の若者特有な言葉なので、中国にも若者言葉はあるが、そんなに多くはない。日本人の若者言葉はみんなが言っている。毎日、日本人の若者が使う。(種類が多いということ?) 種類が多くて。「ヤバイ」とか「ヤベー」。(中国は?) 中国ではよくインターネットの言葉をよく使っている。特に若者言葉は少ない。それはどうしてかと思う。(イメージの変化は?) 4のイメージは日本に来る前にも少し持っていたが、日本に来て強くなった。」と解釈した。

各クラスター間の比較においては、クラスター1と2について『『礼儀正しい・マナーがいい』と、『迷惑をかけない』は同じだと思う。マナーが悪くなると迷惑をかけるので、マナーがいいと迷惑をかけない。もともと周りの人に配慮することは、礼儀正しさの表れだ。」と解釈した。クラスター1と3について「日本人のみんながちゃんとルールを守って、迷惑を掛けないルールを守っ

表4 被調査者Dの異文化観イメージとそのきっかけ

	イメージ項目	イメージ形成のきっかけ・媒体など
1	1. 私が生活する日本の社会 (+)	無回答
	5. 別の人に配慮する・迷惑をかけない (+)	道や電車で経験したから
2	3. 日本人と外国人が分かり合うこと (+)	無回答
	4. 礼儀正しい・マナーがいい (+)	並ぶときに日本人はきちんと順番を守るのを見て
3	2. 私と日本人がつきあうこと (+)	無回答
	10. 環境がいい (+)	自然環境や空気が綺麗だと感じているから
	8. 安定・安全 (+)	犯罪率が低いから／安全に生活できると感じているから
	9. 道がきれい・トイレがきれい (+)	駅や道で見たから
4	6. 日本人は日本人らしい表情と体の動きがある (0)	日常生活の日本人を観察したから
	7. 若者言葉が面白い (+)	日本の若者との付き合いから

て、だから安定している、安全な生活が作れた。」と解釈した。クラスター2と3について「さっき言ったとおり、安定だ。安定と安全は、マナーがいいから結果的に作られた。そして、道もトイレもきれいさが守られている。」と解釈した。クラスター2と4について「『礼儀正しい』は、日本人の体の動きに表れる。表情も分かる。」と解釈した。

全体のイメージについては、「全体的には社会が安定して、環境がきれいで、人と人の接触はいい雰囲気だ。人と人がお互いあまり争ったり、喧嘩したりしない。中国人はよく自分のことを考えるから、よくけんかとかする。日本人は周りの人に迷惑をかけないから争わない。(他には?)日本はすごく発達している。小さなことでも感じた。物だけではなく人もサービスも発達している。」と解釈した。

被験者Dの対日イメージとそのきっかけは、表4の通りである。多くの対日イメージは、日本での留學生活の中で形成されており、特に電車、駅、道等の公共の場における経験がきっかけとなっているものが多い。プラスイメージとマイナスイメージの項目数の比較では、10項目のうちプラスが9項目、マイナスが0項目、どちらもないが1項目であった。

4. 考察

4.1. 「日本の社会」についてのイメージ

ここでは、被調査者4名の「私が生活する日本の社会」についてのイメージを取り上げ、考察を行う。Aは「とても便利だ」、「礼儀正しい」、Bは「手続きなどが多い。面倒くさい」、「安全」、Cは「物価が高い」、「便利だ」、Dは「別の人に配慮する」というイメージを「日本社会」から連想している。これらのイメージは、コンビニエンスストアでの買い物、電話の契約手続き、電車やバス等公共交通機関の利用等の日本における直接的な経験から得られており、日本の実情を反映したものと考えられる。これらのイメージ以外で注目するのは、Bの「日本に来る前は、ドラマなどで見ると、みんなかわいくて。(中略)明るい国だと思っていたが、社会が明るいと思っていたが、ここに来たら日本人は結構真面目で、そんなに明るい感じはしなかった。」、「日本に来る前、日本人はどんな服装でも平気で、街を歩いていても誰も見ないって印象がドラマとかで出ただけ。でもXでは、ちょっと変な服着たらみんな見る。」という解釈である。これらは、留學前後で

イメージが大きく変わったケースであり、留学前はドラマや映画等が日本社会のイメージを形成していたが、現実とは異なることを留学生活によって認識したと考えられる。「イメージが先行する」、「イメージが一人歩きする」と言われることがあるが、Bは日本留学前にはまさに「日本というイメージが一人歩きした」状態であったと言えよう。Bの言う「かわいい」や「変な服」というのは、普通ではないからこそメディアに取り上げられるものであるが、普通の日本社会が分かっているなければ、「かわいい」・「変な服」＝「日本」というイメージが拡散する。つまり、現実の日本社会についての理解がなければ、日本の文化の一部分であるドラマ、映画、アニメーションが日本社会を代表することになる。海外における「サムライ」、「芸者」、「忍者」等のイメージはその最たるものであろう。日本社会を理解してもらおうときだけではなく、外国の文化を理解するときに、いかにその情報源の正確さ、公平さが重要かということが言えよう。日本語、日本文化を紹介する教材作成においても留意する点であろう。

4.2. 「日本人との交流」についてのイメージ

ここでは、被調査者4名の「私と日本人がつきあうこと」についてのイメージを取り上げ、考察を行う。Aは「日本人は優しくしてくれる時もあるが、冷たい時もある」、Bは「外国人より日本人の方が、本音は言わない」、「日本人はどこへ行っても礼儀正しいと思っていたのだが、大阪とか旅行に行ったとき、中国と同じだなと思った」、「日本人は怒らないと思っていた。いつも礼儀正しくて、怒らないと思っていた。でも、ここに住んでつきあったら、怒るって分かった。日本人は怒るが何も言わないから、みんなが怒らないって思う。外国人は、日本人は怒らないと思うが実は怒る」、Cは「真面目」、「やさしい」、「ちょっとストレスがある。いつも優しく接してくれるが本当の気持ちがちょっと分からないからストレスを感じる。うれしいのか怒っているのか、分かりにくい。気持ちを言葉で言わないからどうしたらいいか分からない」、Dは「日本人のほとんどは、礼儀正しい、マナーがいいと思う。」というイメージを「日本人とつきあうこと」から連想している。ここで注目すべき点は、A、B、C、Dのイメージの違いが、日本人に対する理解の深さを反映していることである。まず、Dは「礼儀正しい、マナーがいい」という日本人のステレオタイプの日本人イメージを述べている。これは、日本人との付き合いがそれほどない者、日本人に対する理解が浅い者が持つイメージと考えられる。現にDの「私と日本人がつきあうこと」のクラスターは、「環境がいい」、「安定・安全」、「道が綺麗・トイレがきれい」という表面的なイメージによって構成されており、日本人の感情や負の側面などを述べたものはなかった。次に、AとCは、Dよりも一歩理解が進んだ段階にあると考えられる。Aは「優しくしてくれる時もあるが、冷たい時もある」、Cは「優しく接してくれるが本当の気持ちが分からない」、「うれしいのか怒っているのか、分かりにくい。」等のイメージを抱いており、日本人との距離を感じ、本音の部分が何であるのかを疑問に持っている。つまり、日本人の表面的な部分だけではなく、本音の部分に気づき始めている段階である。最後にBは、A、Cよりもさらに理解が進んだ段階と言えよう。つまり、日本人とのつきあいが深まり、距離が近くなると日本人の本音、本心の部分が見えるようになる段階である。Bは「日本人は怒らないと思っていた。いつも礼儀正しくて、怒らないと思っていた。でも、ここに住んでつきあったら、怒るって分かった。」というイメージを抱いている。さらにBは、「日本人が怒る」ということだけではなく、外国人が「日本人は怒らない」とイメージを持ってしまう原因について「外国人は、怒ったら怒ったって言ったりしてすぐ分かる」、「日本人は怒るが何も言わないから、みんなが（日本人は）怒らないって思う。」と述べている。怒りの感情を言葉として表

出するのが当たり前と考えている外国人は、「日本人は何も言わない」＝「日本人は怒っていない」となることを理解している。Bは日本人との距離が近くなったことによって、日本人の感情表現を理解しただけではなく、外国人が日本人について誤解してしまう原因に関しても理解を深めたと言えよう。

4.3. 「日本人と相互理解」についてのイメージ

ここでは、被調査者4名の「日本人と外国人がわかりあうこと」についてのイメージを取り上げ、考察を行う。Aは「日本人は、外国のことをよく知っていると思う。」、Bは「いろいろ話や文化など通じないことがあるが、ほとんどの気持ちとかは分かり合えると思う。」というイメージを持っている。Cは「日本人と外国人が分かり合うこと」と「私と日本人がつきあうこと」、「真面目」、「やさしい」というイメージとが同一のクラスターになっている。Dは「日本人と外国人が分かり合うこと」と「礼儀正しい・マナーがいい」が同一のクラスターを形成している。「日本人と外国人が分かり合うこと」についてのイメージは、4.2「私と日本人がつきあうこと」と重複する部分が多いため、比較しながら考察を行う。

4.2. では日本人に対する理解の深度を考察したが、そこでは理解が進む順にD→A/C→Bであることを示した。このような異文化に対する認識の変化は、一般的にU字曲線で説明される(原沢2013)。それによると、被調査者Dは「新しい文化に陶醉」の段階、被調査者AとCは「異文化に直面」の段階、Bは「適応を開始」～「適応」の段階に該当すると考えられる。Dは表面的な日本人との付き合いであり、「日本人と外国人が分かり合うこと」においても「礼儀正しい・マナーがいい」という典型的な日本人の長所を挙げている。AとCは、日本人の表面的な行動と本音があることに気づき始めた段階であるが、「日本人と外国人が分かり合うこと」については、A「日本人は、外国のことをよく知っている」、C「真面目」、「やさしい」という肯定的な面のみを挙げている。Bは日本人の本音に気付いている段階だが、「日本人と外国人が分かり合うこと」については、「いろいろ話や文化など通じないことがある」というマイナスの側面と、「ほとんどの気持ちとかは分かり合えると思う。」というプラスの側面を同時に挙げている。Bのように日本人に対する理解が進むと、共通する部分は共通する部分として、相違点は相違点として認識できるようになると考えられる。異文化に対して、長所、短所という認識ではなく、単なる自国文化との「違い」として相手の文化を認めることが、外国人と分かり合うために必要なことと言えよう。

5. まとめと今後の課題

本稿では、留学生が日本において異文化をどのように理解しているのかについて三つの観点から考察を試みた。「私が生活する日本の社会」については、日本における直接的な経験からイメージを得ており、日本の実情を反映している。しかし、日本留学前には「かわいい」、「変な服を着る」というような偏った日本像を持っていた者もいる。「私と日本人がつきあうこと」と「日本人が外国人と分かり合うこと」については「日本人を理解する」という部分で重複する部分が多かったが、これについてはいくつかの段階があることが示唆された。まず、日本人に対する表面的な理解の段階であり、「礼儀正しい」や「親切」等の言葉に代表される日本人の長所のみを挙げる段階である。次に、日本人の冷たさを感じ始めた段階であり、「日本人の本音が分からない」状態である。この段階から理解が進むと、日本人の本音を理解し、異文化を好悪ではなく自国文化との単なる違いと

して認識できるようになる。異文化を理解する段階は、一般的に充実感と時間の変化から U 字曲線を描くとされているが、本研究の被調査者 4 名は同時期に来日しており、時間的な条件は同じである。来日してから約半年という経過時間が同一でありながら、異文化についての認識が異なるということは、来日後の個人的な経験や人間関係等の違いが影響していると考えられる。今後は、このような異文化理解の違いがどのような要因によって生じるのかについて探っていきたいと考えている。

付記

本論文は日本学術振興会学術研究助成基金助成金基盤研究 (C) (課題番号: 17K02838, 研究代表者: 安龍洙) の助成によるものである。

参考文献

- 安龍洙 (2008a) 「韓国人留学生の対日観の変容に関する一考察—個人別態度構造分析法 (PAC 分析法) を用いて—」『留学生交流・指導研究』10, 31-48.
- 安龍洙 (2008b) 「韓国人の対日観に関する一考察—個人別態度構造分析法 (PAC) を用いて—」『ユーラシア研究』5(3), 107-125.
- 安龍洙 (2009) 「外国人の対日観に関する事例研究—韓国人短期留学生の場合—」『茨城大学留学生センター紀要』7, 1-13.
- 安龍洙 (2010a) 「外国人の対日観に関する研究—日本滞在歴の長い韓国人の場合—」『ユーラシア研究』7(4), 373-392.
- 安龍洙 (2010b) 「外国人の対日観に関する研究—中国人非正規留学生の場合—」『茨城大学留学生センター紀要』8, 1-17.
- 安龍洙 (2011) 「外国人の対日観に関する研究—ベトナム人留学生の場合—」『茨城大学留学生センター紀要』9, 1-18.
- 安龍洙 (2012) 「外国人の対日観に関する研究—中国の少数民族出身者の場合—」『茨城大学留学生センター紀要』10, 1-14.
- 安龍洙 (2013) 「外国人の対日観に関する研究—中国人留学生の来日前後の対日観を比較して—」『茨城大学留学生センター紀要』11, 1-15.
- 安龍洙 (2016) 「日本で就職した元韓国人留学生の対日観の変化に関する一考察」『茨城大学留学生センター紀要』14, 93-105.
- 安龍洙・宋有宰 (2013) 「外国人の対日観に関する研究—日本滞在歴の長い韓国人留学生の場合—」『茨城大学留学生センター紀要』11, 81-96.
- 内藤哲雄 (2002) 『PAC 分析実施入門: 「個」を科学する新技法への招待 (改訂版)』ナカニシヤ出版.
- 原沢伊都夫 (2013) 『異文化理解入門』研究社, 58-59.
- 松田勇一 (2013) 「外国人の対日観に関する研究—ベトナム人留学生の場合—」『茨城大学留学生センター紀要』11, 97-111.
- 松田勇一 (2014) 「外国人の対日観の変化に関する研究—ウクライナ人留学経験者の場合—」『茨城大学留学生センター紀要』12, 55-74.
- 松田勇一 (2017) 「外国人の対日観の変化に関する研究—台湾人日本永住者の場合—」『茨城大学留学生センター紀要』15, 41-59.